



情報技術委員会の取組みと JEITA Web-EDIガイドライン概説

情報技術委員会



1-2. EDI標準と情報技術委員会の活動対象

標準化レイヤー		内容
ビジネスプロセス (業務モデル)		・ビジネスシナリオ ・業務運用規約 等
標準メッセージ		・XML ・C I I
EDI共通基盤 (情報伝達のためのインフラ)	プロセス制御	・BPSS (必要に応じて選択)
	EDI転送	・ebMS、全銀手順 等 ・ASP相互接続/運用標準

- ・国際標準・国内標準・業界標準の優先順位で採用検討
- ・業務運用環境、ネットワーク環境を考慮した標準化推進

1-3. 現状の課題と07年度の取組み

【現状の代表的課題】

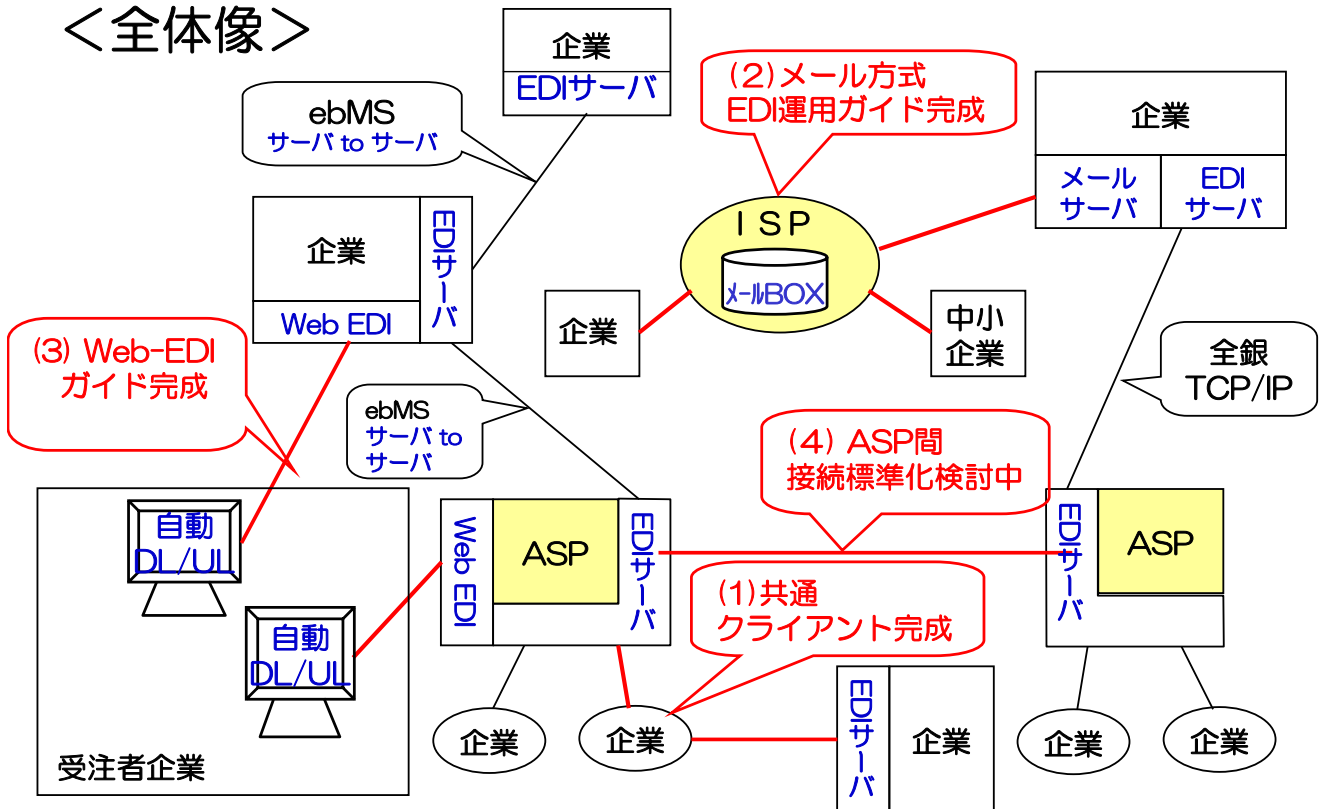
- ・ebXML/ebMSサーバへの投資対効果が見えない
- ・プロセスを自動制御できるほど業務が標準化されていない ⇒ BPSSでは対応できない
- ・複数ASP接続の懸念／接続プロトコルの相違
- ・Web-EDI進展による業務システム自動連携の弊害
- ・中小企業導入にはコスト高

【07年度の活動】

- (1) JEITAクライアント開発及びECOM実証実験参加
- (2) メール方式EDI運用ガイド作成
- (3) Web-EDIガイドライン作成
- (4) ASP間連携ガイドライン作成

1-4. EDI共通基盤における07年度取組み

<全体像>

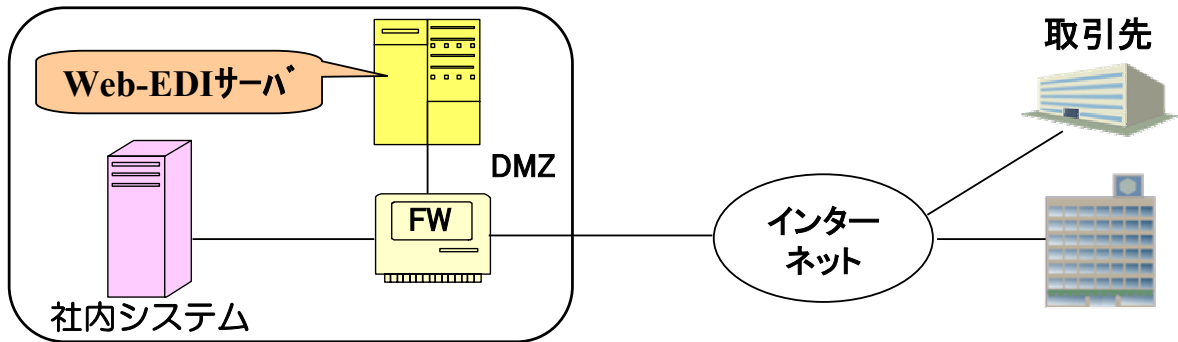


2. Web-EDI標準運用ガイド 概説

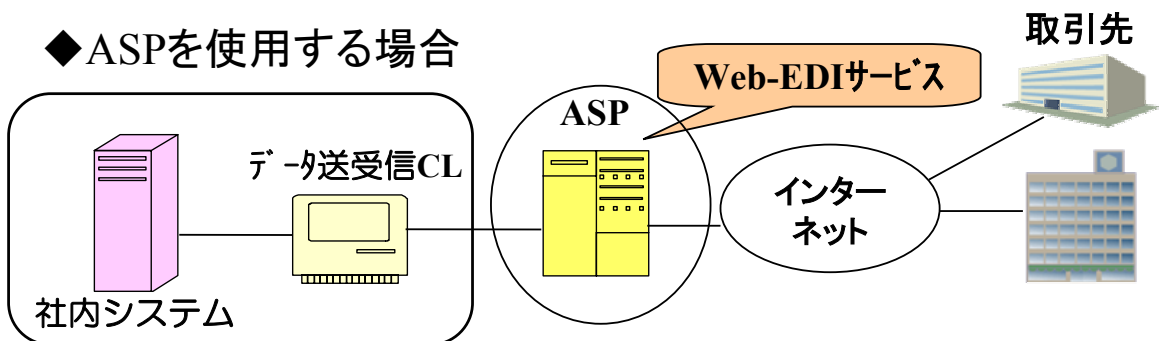
- 1) Web-EDIの実現方法
- 2) Web-EDIの問題点
- 3) ガイド制定の背景と方針
- 4) Web-EDIにおける本ガイド提示範囲
- 5) ガイドラインの概要
- 6) 本ガイドの活用方法

2-1. Web-EDIの実現方法

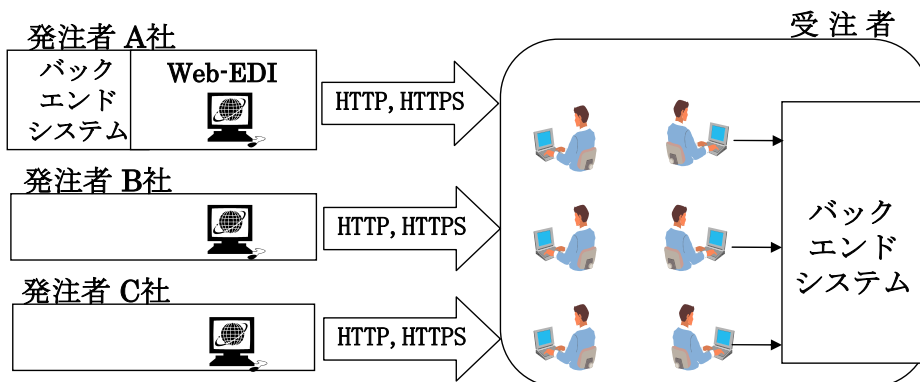
◆自社でWeb-EDIサーバを立てる場合



◆ASPを使用する場合



2-2. Web-EDIの問題点



◆ Web-EDIの利用実態 ◆

- ①発注者Web-EDIシステムに人手個別アクセス
- ②個別操作で画面検索
- ③画面情報を帳票出力または、メモに記述
- ④自社バックエンドシステムに手入力

発注者システム毎に①～④を繰り返す。

◆ Web-EDI利用の問題点 ◆

- ①発注社ごとに社内連携仕様が異なる (変換ミスが発生しやすい)
- ②件数が多くなると入力工数大、ミス多発
- ③画面ハードコピー、帳票出力など無駄多い
- ④後続処理が遅れる(手配遅れ発生)
- ⑤人手処理のため処理忘れ、休日未対応が発生。

Web-アプリケーションとWeb-EDIとの誤解

2-3. ガイド制定の背景と方針

◆Web-EDI(Webアプリケーション?)の急速な普及が抱える課題

①標準化の問題

- ・画面が標準化されず、操作性など利用側の処理が煩雑
- ・認証方法など運用も標準化されず処理が煩雑

②利便性の問題

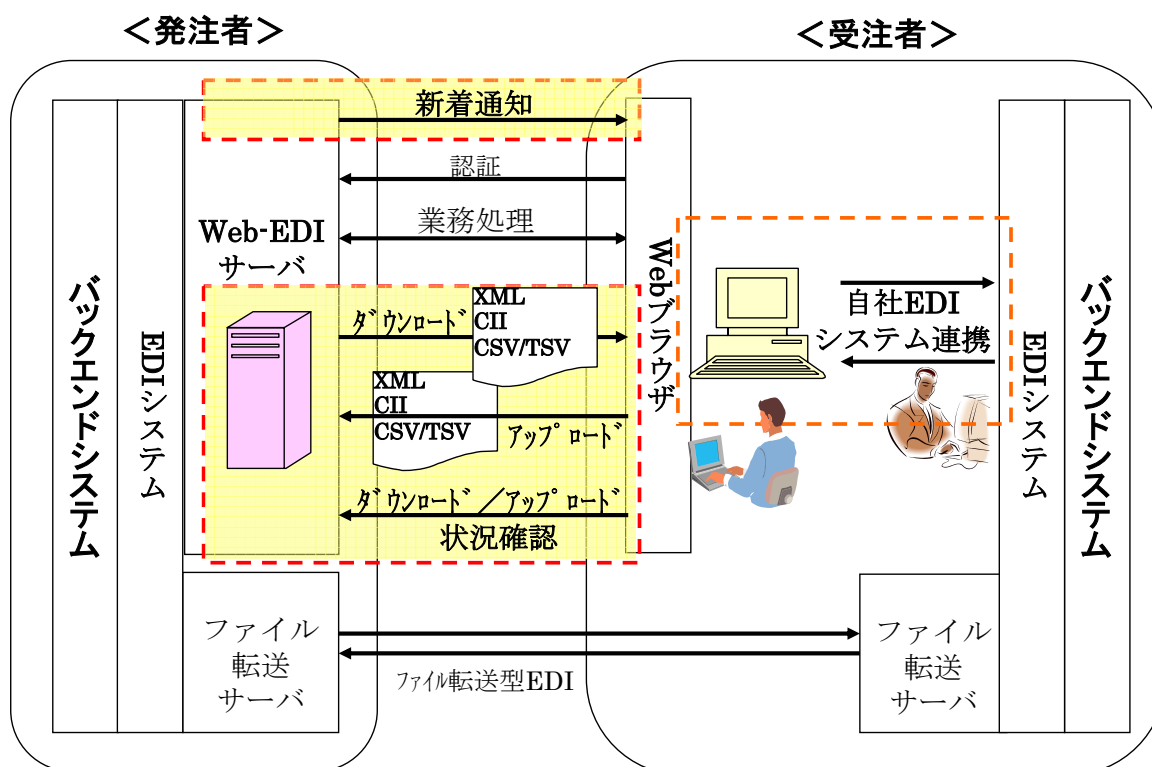
HTML形式での画面表示が主流のため

- ・受注者側でデータを再利用しにくい、手入力して社内システムへ連携
- ・印刷前提の運用が多く、ペーパーレス化が出来ず運用付加大
(環境対応にも逆行)



**EDI(Electronic Data Interchange)の本来の目的
であるシステム間データ連携を実現するためのガイド**

2-4.Web-EDIにおける本ガイド提示範囲



2-5. ガイドラインの概要(1)

EDI利用者、特に受注者側でのデータ再利用の促進を主眼に作成

- 情報種、データ項目について: JEITA/ECALGA標準準拠を必須とする
- 新着情報の通知について: 少量データユーザへの運用を配慮し必須とする
⇒通知方法、通知内容について記述
- ファイルダウンロードの操作: WEB-EDI操作画面上にダウンロードボタン設置を必須とする
⇒ダウンロードの利用パターン、単位(情報種毎、一括)
⇒ダウンロードの結果通知、Webでの状況確認
⇒再ダウンロード機能
- ファイルアップロードの操作: 今後の利用度UPを見込み推奨機能とする
⇒アップロードの利用パターン、単位
⇒アップロードの結果通知、エラー通知、Webでの状況確認
⇒エラー時のリカバリー方法

2-5. ガイドラインの概要(2)

EDI利用者、特に受注者側でのデータ再利用の促進を主眼に作成

- ファイルフォーマット: CII形式、XML形式、CSV(TSV)形式いずれかで実現する事が必須
 - ⇒ 但しECM系はECALGA/XMLファイル形式のみとする
 - ⇒ CII形式でのファイル形式は
 - ・メッセージグループヘッダレコード
 - ・トランザクションレコード
 - ・トレーラレコードで構成
 - ⇒ CSV(TSV)形式でのファイル形式はSCM系ビジネスドキュメントを対象としデータ種類ごとにUP/DOWNロードする場合
 - ・メッセージグループヘッダレコード
 - ・トランザクションレコードの2種類の構成
 - 複数データ種を一括で取り扱う場合
 - ・メッセージグループヘッダレコード
 - ・トランザクションレコード
 - ・トレーラレコードで構成
 - ⇒ CSV(TSV)での項目の並びはJEITA/ECALGA標準シタックスルールの順序に従い
 - ・繰り返し項目は最大数まで充当する
 - ・文字コードはS-JISコードとする

2-5. ガイドラインの概要(3)

EDI利用者、特に受注者側でのデータ再利用の促進を主眼に作成

- 利用者が参加しやすいWeb-EDIの前提条件: ネットワーク、OS、ブラウザ等の考慮点
- 運用時の注意: セキュリティ、契約の成立との関係の規定、データ保存期間の取決め
- 参考資料

2-6. ガイドラインの活用方法

【新規Web-EDIシステム導入時の対応】

- 自社で開発する場合: 本来のEDI機能実現に関する標準仕様として利用下さい
- ASPを利用する場合: ガイドラインの内容をASP業者選択の際のCHK項目として利用下さい。

【既存Web-EDIシステムでの対応】

- 現在各社で開発利用、もしくはASPベンダーなどにより提供されているシステム/サービスに本ガイドラインの即時対応を依頼するものではありません
- 機能拡張、Version-UPなどシステム改訂を実施する際に本ガイドラインの推奨機能の適応を御願います

3. JEITA Web-EDI認定制度

1) 認定制度の概要

2) 認定の手続き

3) ガイドライン紹介ホームページ

3-1. JEITA Web-EDI認定制度の概要

目的 JEITA Web-EDIガイドラインを遵守戴き、EDIの普及促進を図る

申請単位 Web-EDIのサービス単位

審査方法 Web-EDIガイドライン 認定基準チェックシート(47CHK項目)を提出していただきJEITA情報技術委員会にて審査

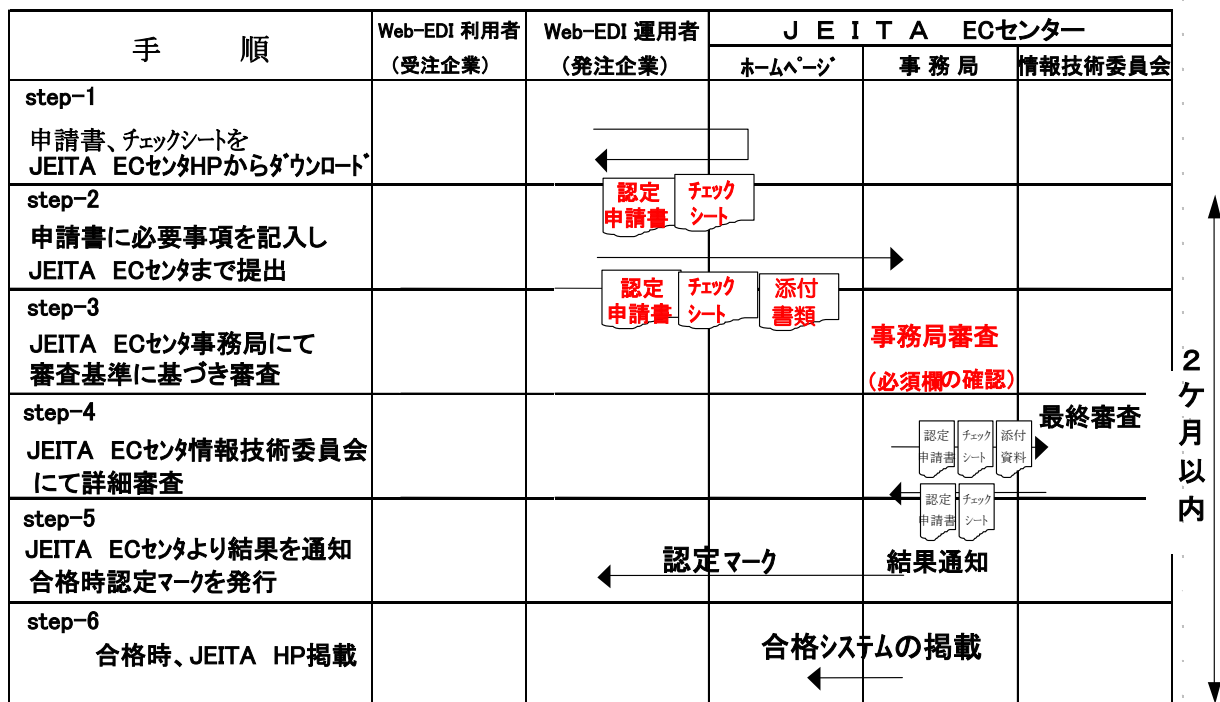
認定されると

- ・JEITAより、認定されたWeb-EDIシステムで利用可能な認定マークを、また印刷物へ 利用可能な認定マークを発行・進呈いたします。
- ・JEITA ECセンタHPで、認定されたWeb-EDIシステム名称を公開し、申請会社の標準化に対する貢献を広くアピールします。

費用 無 料(但し、2年毎の更新申請が必要です)

開始時期 2008/07/1 スタート

3-2. 認定の手続き (新規申請の場合)



3-3. JEITA Web-EDIガイドライン紹介HP

【JEITA ECセンタ Web-EDIガイドライン紹介ホームページ】

: 申請に必要な下記情報を掲載しています

URL: <http://ec.jeita.or.jp>

- 認定制度の目的
- 各種申請手続き手順のご紹介
 - ・新規登録申請手順について
 - ・更新申請手順について
 - ・登録内容変更申請手順について
- 認定マークご利用上の注意
- 申請に必要な各種資料
 - ・認定申請書および認定申請書記入例
 - ・チェックシートおよびチェックシート記入例
- 認定企業一覧

認定マーク



業界の活性化、企業活動の効率化のためにガイドラインの遵守を
御願いとすると共に、たくさんの認定申請をお待ちしております